

【教育目標 夢中になる とともに創る】



きらきら

新潟市立沼垂幼稚園
園だより
令和6年11月29日発行

子どもが創り出す誕生日

園長 青木博子

11月1日。沼垂幼稚園創立110周年の記念式典が行われました。当日の子供たちの出番は、歌と、ろうそくに火をつけて「おめでとう」という言葉を言い、宝箱からお祝いの宝石を飛び出させる場面でした。時間にすれば10分です。そこには、それまで何日もかけてきた思いがこもっていました。歌だけでなく、大きなケーキや宝箱から飛び出す宝石、そして園内や式典会場の飾りに子供たちのお祝いの思いがたくさん詰まっていたのです。



年少の子供も、年中の子供も、年長の子供も、沼垂幼稚園に喜んでもらいたいという思いを込めて、10月から日々準備を進めてきました。準備を進めるというよりも、「今日は宝石を作りたい」「今日はケーキを作りたい」「今日は飾りを作りたい」「今日は歌いたい」と日々の保育の中で、わくわくしながら創り上げてきたのです。

～ 園のお誕生日を迎えるまでの子供たち ～

年少組の子供は、記念式典を迎える日まで、お祝いの歌を楽しそうに歌っていました。また、年長組の子供が作った大きなケーキを見て、大好きなマシュマロケーキを作ってろうそくを立てたり、年長組が作ったケーキにどんぐりや小枝などの秋のオブジェを飾ったりして、お誕生日を毎日楽しんできました。



年中組の子供は、大きな大きな紙に描いたケーキに、たっぷりの生クリームと大好きなフルーツなどをたくさん のせました。ろうそくは手作りで、1本1本折り紙を丸めて棒状にし、火がついています。自分たちで素材を選び、丸めたり形を作ったりして、飾りを作り上げていました。また、式典会場に飾る輪飾りをつくり、自分たちで壁に飾って、お祝いの気持ちを表そうとしてきました。



年長組の子供は、大きな大きなケーキを作りました。自分たちの身長より高いホールケーキは自分たちで段ボールを切って、3段にして土台を作りました。真っ白な生クリームを塗りケーキのスポンジ部分が出来上がっていききました。



そこに、光る素材の紙を選択して宝石を作り飾りました。また、花など自分の好きなものを作って、ケーキに飾りました。その時から「ケーキはみんなに内緒ね」と言いながら、サプライズでびっくりさせようと、ワクワクしながら作っていました。子供にとってお祝いするという事は、相手をびっくりさせたい気持ちもあるのですね。



ケーキに宝石やフルーツなどが飾り付けられた後、次に考えたのはケーキに飾るろうそくです。それも火がついたり、消えたりする仕掛けのろうそくです。ストローの中にモールを入れて、マッチで火をつけると、モールが出てきて、火がつくのです。当日はこのろうそくの点火リレーが行われ、きれいに点火されました。



さらに、年長組の子供が考えたのは、宝箱から宝石がたくさん飛び出すお祝いの仕掛けです。年長組の子供はキラキラするものや宝石が大好きで、春から様々な工夫をしながら作って遊んできていました。そこで、宝箱から宝石が飛び出して、お祝いする仕掛けをイメージしました。宝箱を本物そっくりにしたくて、蓋を何度も作り変えました。うまくいかないで、磁石を使ったり、ガムテープを全部はがして、蓋だけを作り変えたりしていました。ピタッと止まるように試行錯誤しながら、協働して作り上げました。

お祝いそのものを心から楽しむ年少児、お祝いを意識しながら、様々な工夫を試み始めた年中児、そして、どのようにお祝いしようか自分たちで考え、そのイメージを実現するために素材を自分たちで選び、試行錯誤し、協働して、やり遂げた達成感、満足感を味わう年長児です。それぞれ年齢を重ねていくと、取り組み方も格段に深まっていきます。

～ 園のお誕生日を支えてくださった皆さん ～

さらに式典に向けて、素晴らしい記念誌を PTA 実行委員の皆さんから作成していただきました。子供一人一人の似顔絵と写真。まさに手作り感あふれる記念誌です。副題を応募したところ、「あそびとまなびのたからばこ」に決まりました。この副題にも大変多くの保護者の皆さんが応募してくださいました。また、当日の素敵な看板、そして沼垂ガーデンの花植、式典会場の飾り、親子で楽しく鑑賞するバルーンアートなどを企画、制作していただきました。これらのほかにも様々なお祝い事業に取り組んでいただきました。保護者の皆さんと子供たちが一体となってお祝いできた会になったと思っています。



～ 大切なこと ～

大切なことは、式典当日だけ華やかな出し物をするのではなく、当日の式典に向けたプロセスです。大好きな沼垂幼稚園に喜んでもらいたいと、子供たちが毎日の保育の中で、夢中になって、ケーキや飾りを創り出していくプロセスこそが大切なのです。

大好きな沼垂幼稚園の誕生日を心からお祝いする気持ちにあふれていた子供たちの温かい思いが推進力となって、創り上げていく子供の姿が、園のあちこちで見られました。